

建 築 研 究 資 料

Building Research Data

No. 217

July 2026

東日本大震災・宮城県南三陸町における 高齢者生活支援施設「結の里」の検討経緯

The Discussion Process on the Establishment of Elderly Living Support Facility

“Yui no Sato” in Minamisanriku Town, Miyagi Prefecture

After the Great East Japan Earthquake

米野 史健, 塩路 安紀子

Fumitake MENO, Akiko SHIOJI

国立研究開発法人 建 築 研 究 所

Published by

Building Research Institute

National Research and Development Agency, Japan

国立研究開発法人建築研究所、関係機関及び著者は、
読者の皆様が本資料の内容を利用することで生じた
いかなる損害に対しても、一切の責任を負うものでは
ありません。

はしがき

災害公営住宅は自宅が再建できない被災者のために自治体が建設する公的な賃貸住宅です。東日本大震災では約3万戸の災害公営住宅が整備されましたが、入居者の半分近くは高齢者であるといわれており、入居した後の見守りや生活支援が必要になってきます。このような問題に対して、日常的な見守り活動や生活支援の拠点となるとともに、災害公営住宅の入居者をはじめとする幅広い地域住民が集まるコミュニティの拠点となるような形で、災害公営住宅に併設してつくられたのが、本資料で紹介する宮城県南三陸町の高齢者生活支援施設「結の里」です。

国立研究開発法人建築研究所（以下、「建築研究所」）は、国土交通省住宅局が市町村における災害公営住宅の整備検討を支援するためにコンサルタントを派遣する調査業務（通称「直轄調査」）に、国土交通省国土技術政策総合研究所とともに技術指導の立場で参画し、2011年の東日本大震災、2016年の熊本地震、2018年の西日本豪雨、そして2024年の能登半島地震まで、市町村を支援する様々な活動を行ってきました。なかでも東日本大震災の直轄調査は、2011年度から2015年度までの5年間に渡って実施され、建築研究所のスタッフもこの間及びそれ以降も含めて市町村に対する継続的な支援を行ってきました。「結の里」も、そのような支援の中で実現したプロジェクトの一つです。

今後わが国では高齢化や人口減少が急激に進むといわれており、高齢者の生活を支えるための住まいの確保や、住まいでの生活を支えるための支援は、とても重要な課題です。特に災害が発生した後は、高齢化や人口減少の問題が平時以上のスピードで生じることとなり、高齢者が多く暮らすこととなる災害公営住宅において、見守りや生活支援を行う施設や体制を整備することはさらに重要になります。そのような問題に対する一つの解答として、高齢者生活支援施設「結の里」の取組は参考になるのではと考えます。本資料がそのための一助となれば幸いです。

令和8年7月

国立研究開発法人建築研究所
理事長 福山 洋

東日本大震災・宮城県南三陸町における 高齢者生活支援施設「結の里」の検討経緯

米野 史健^{*1}，塩路 安紀子^{*2}

概要

本資料は、東日本大震災で多大な被害を受けた宮城県南三陸町において、災害公営住宅団地に併設される形で建設された高齢者生活支援施設「結の里」に関して、最初のアイディアの段階から、町内でのオーソライズ、イメージの構築と具体のプランの設計、そして運営体制の検討を経て、実現に至るまでの経緯を整理したものである。

災害後に建設される災害公営住宅は、自宅を自力で再建できない被災者に対して供給されるものであり、資金力や行動力が相対的に乏しい高齢者が多く入居することになる。災害公営住宅の入居者のうち高齢者が占める割合が半数を超えるような市町村や団地も多く、完成後に入居して生活が始まってからも、安心して暮らせるように見守ることが必要であり、また一人で暮らすのが難しい者に対しては様々な生活支援を行うことが求められる。

「結の里」は、このような高齢者の在宅生活を支える介護サービスを提供するとともに、住民が気軽に集えて地域でのささえあい・助け合いが広がっていくような場とするために、つくられた高齢者生活支援施設である。南三陸町の社会福祉協議会が補助金を受けて整備して運営を行っているところ、及び地域の住民が運営に関わっているところが特徴であり、このような民設民営の形で運営されている生活支援施設が併設されている団地は、東日本大震災後に建設された災害公営住宅の中でも珍しいものであり、意欲的かつ先駆的な取組といえる。

この施設は、南三陸町の住宅部局・福祉部局、南三陸町社会福祉協議会のほか、宮城県の住宅・福祉部局、災害公営住宅を建設するUR都市機構、外部から支援するコンサルタントや研究者、そして住民などの、様々な立場の人々の長年にわたる努力と協力があって実現したものであり、これらの主体が5年程に渡って進めてきた検討の経過が本資料にまとめられている。

*1 国立研究開発法人建築研究所住宅・都市研究グループ *2 ジオ・プランニング

The Discussion Process on the Establishment of Elderly Living Support Facility
“Yui no Sato” in Minamisanriku Town, Miyagi Prefecture
After the Great East Japan Earthquake

Fumitake MENO*¹, Akiko SHIOJI*²

ABSTRACT

This publication summarizes the process of the establishment of elderly living support facility named “Yui no Sato” in Minamisanriku town of Miyagi prefecture after the Great East Japan Earthquake.

This facility contains senior day care center, home-visit care support center, general consultation desk, and community café. These services are provided not only for elderly persons who live in disaster public housing but also for residents of all ages in the town. Social welfare council built this facility with public subsidies, and operates this facility in cooperation with residents.

During the construction of this facility, various parties cooperated, including the town government, the social welfare council, the prefectural government, staff of Urban Renaissance Agency (UR), consultants, academic experts and residents. Their efforts and collaboration for five years are documented in this publication.

*1 Building Research Institute, *2 Geo Planning

東日本大震災・宮城県南三陸町における
高齢者生活支援施設「結の里」の検討経緯

<目次>

はしがき

概要

ABSTRACT

1. はじめに.....	1
(1) 高齢者生活支援施設「結の里」の概要.....	1
(2) 検討経緯の概要.....	2
2. 検討の経緯.....	5
(1) 被災者支援と復興の枠組みづくり（背景）： 被災者生活支援システムの構築と災害公営住宅整備計画の策定（H23 年度）.....	5
(2) 「福祉モール」始動期： 「福祉モール」のアイデア出しとオーソライズ（H24・25 年度）.....	9
(3) 計画・事業手法検討期： 志津川東地区災害公営住宅と「福祉モール」のイメージ固め（H25 年度末～27 年度前半）..	18
(4) 設計見直し／運営のしくみづくり準備期： 施設提案内容の見直しと地域支え合いの仕組みづくりの準備（H27 年度後半～28 年度）....	38
(5) 実施設計・工事／運営のしくみづくり活動期： 「地域ささえあい活動検討会」と「結の里」開設・活動開始（H29～30 年度）.....	47
3. まとめ.....	58
(1) 「結の里」の意義.....	58
(2) 「結の里」が実現できた要因.....	60

